平成24年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年2月10日

上場会社名　山陽電気鉄道株式会社　　上場取引所　大
コード番号　9052　URL　http://www.sanyo-railway.co.jp/
代表者　(役職名) 代表取締役社長　(氏名) 上門　一裕
問合せ先責任者 (役職名) 取締役総務本部マネージャー　(氏名) 荒木　素直　TEL 078-612-2032

四半期報告書提出予定日　平成24年2月13日
配当支払開始予定日　―
四半期決算補足説明資料作成の有無　：　無
四半期決算説明会開催の有無　：　無

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年3月期第3四半期の連結業績(平成23年4月1日～平成23年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)　(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第3四半期	34,176	△7.4	3,372	△0.9	3,127	1.1	1,768	11.3
23年3月期第3四半期	36,916	0.0	3,402	18.2	3,093	24.5	1,589	14.2

(注)包括利益　24年3月期第3四半期　1,542百万円　(0.7%)　23年3月期第3四半期　1,532百万円　(―%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第3四半期	15.91	―
23年3月期第3四半期	14.30	―

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年3月期第3四半期	90,396	26,976	29.5
23年3月期	92,733	25,880	27.6

(参考) 自己資本　24年3月期第3四半期　26,648百万円　23年3月期　25,593百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	―	2.00	―	2.00	4.00
24年3月期	―	2.00	―		
24年3月期(予想)				2.00	4.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：　無

3. 平成24年3月期の連結業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	47,189	△4.6	3,881	△9.2	3,422	△11.8	1,874	33.2	16.86

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：　有

4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 ―社 (社名) 、 除外 ―社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	24年3月期3Q	111,652,992 株	23年3月期	111,652,992 株
② 期末自己株式数	24年3月期3Q	453,429 株	23年3月期	447,215 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	24年3月期3Q	111,202,896 株	23年3月期3Q	111,213,253 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビューの対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しておりません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、四半期決算短信(添付資料)P.3「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 …… 2
（１）連結経営成績に関する定性的情報 …… 2
（２）連結財政状態に関する定性的情報 …… 3
（３）連結業績予想に関する定性的情報 …… 3
２．サマリー情報（その他）に関する事項 …… 3
（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 …… 3
（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 …… 3
（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 …… 3
３．四半期連結財務諸表 …… 4
（１）四半期連結貸借対照表 …… 4
（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 …… 6
四半期連結損益計算書 …… 6
四半期連結包括利益計算書 …… 7
（３）継続企業の前提に関する注記 …… 8
（４）セグメント情報等 …… 8
（５）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 …… 8

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）連結経営成績に関する定性的情報

当第３四半期連結累計期間におけるわが国経済は、平成23年３月に発生した東日本大震災の影響により個人消費は低迷し、雇用情勢も依然として厳しい状況が続いたほか、円高の進行や欧州債務危機による海外景気の下振れリスクが懸念されるなど、景気全体としては先行き不透明のままに推移いたしました。

このような情勢のなかで、当社においては企画乗車券の発売やテレビＣＭの放映などを通じて当社沿線への旅客誘致に努めましたほか、山陽百貨店では食料品等の売場リニューアルを継続して実施するなど、さらなる収益拡大に努めました。

この結果、当第３四半期連結累計期間の業績は、営業収益が34,176百万円と前同四半期連結累計期間に比べ2,740百万円（△7.4％）の減収、営業利益は3,372百万円と前同四半期連結累計期間に比べ29百万円（△0.9％）の減益となりましたが、営業外費用の減少が大きかったこともあり、経常利益は3,127百万円と前同四半期連結累計期間に比べ33百万円（1.1％）の増益となり、四半期純利益は1,768百万円と前同四半期連結累計期間に比べて178百万円（11.3％）の増益となりました。

①運輸業

運輸業におきましては、鉄道事業では沿線への旅客誘致と各種１dayチケットのさらなる認知度向上をめざし、関西エリアでテレビＣＭを放映するなど、積極的にＰＲ活動に取り組みました。また、平成23年11月に開催されたＢ級ご当地グルメの祭典「Ｂ－１グランプリin姫路」においてはイベントチケットをセットにした企画乗車券を発売したほか、同月の「第１回神戸マラソン」では、一部直通特急の臨時停車を実施するなど、当社の利用促進に努めました。施設面では、安全性のさらなる向上をはかるため、踏切支障報知装置設置工事や列車運行管理システム更新工事等を推進いたしましたほか、明石川～林崎松江海岸駅間での第２期明石市内連続立体交差事業においては、同事業の推進をはかるなかで、平成23年６月に仮線路への切替工事を完了いたしました。

自動車事業では、一部バス路線の延伸やお客さまの利用動向にあわせたダイヤ改正を実施したほか、引き続き低床車両への更新を行うなど、快適性と利便性の向上をはかりました。貸切バスにおいては、企業向けの送迎バスについて新規契約を獲得したほか、少人数でのご利用に便利な小型バス車両を使用し、さらなる受注拡大にも努めました。また、夏休み期間中には、明石市の観光施設をめぐる都心循環バスを運行し、鉄道とも連携した観光旅客誘致に取り組みました。

運輸業全体では、平成22年10月１日の第二種鉄道事業廃止による影響や、東日本大震災の影響による景気低迷のための出控えの影響などにより、外部顧客に対する営業収益は13,523百万円と前同四半期連結累計期間に比べ627百万円（△4.4％）の減収となり、営業利益は1,921百万円と前同四半期連結累計期間に比べ215百万円（△10.1％）の減益となりました。

②流通業

流通業におきましては、山陽百貨店において「日本一生き生きとした百貨店」をめざし、食料品部門においてワイン専門店「エノテカ」、京都の老舗和菓子店「鶴屋吉信」などの新規店舗を導入いたしましたほか、「北海道大物産展」や「松村公嗣日本画展」などの集客力の高い催事を開催するなど、魅力的で賑わいのある店舗づくりを進めました。また、継続して経費削減にも取り組み、収支改善に努めました。

流通業全体では、サンヨーマートにおいて店舗閉鎖がありましたことや、生活雑貨や食料品等の売上が低調でありましたことから、外部顧客に対する営業収益は15,544百万円と前同四半期連結累計期間に比べ890百万円（△5.4％）の減収となりましたが、経費の圧縮等により、営業利益は209百万円と前同四半期連結累計期間に比べ90百万円（76.1％）の増益となりました。

③不動産業

不動産業のうち分譲事業におきましては、大阪府吹田市で「ザ・千里ガーデンズ」、大阪市東成区大今里地区で「ブランズ大今里南」の建設・販売を進めました。また、賃貸事業では、神戸市垂水区小束山地区において平成24年２月末にオープンする予定の大型商業施設「コストコ」等の誘致にかかる諸工事を進めたほか、大阪市天王寺区において新たに賃貸マンションを取得するなど、長期的な収益基盤の強化をはかりました。

不動産業全体では、昨年との分譲規模の差により、外部顧客に対する営業収益は2,160百万円と前同四半期連結累計期間に比べ1,218百万円（△36.1％）の減収となりましたが、賃料収入の増加が寄与し、営業利益は1,116百万円と前同四半期連結累計期間と比べ178百万円（19.1％）の増益となりました。

④レジャー・サービス業

レジャー・サービス業におきましては、須磨浦山上遊園において、春季および夏季の行楽シーズンに夜間営業を行いましたほか、源平ゆかりの地である須磨地区のＰＲ活動にも努めました。また、舞子ホテルにおいては、

大正ロマン漂う邸宅ウェディングの魅力を発信するため、定期的にブライダルフェアを開催するなど、さらなる収益拡大に努めました。

レジャー・サービス業全体では、外部顧客に対する営業収益は1,855百万円と前同四半期連結累計期間に比べ58百万円（△3.0％）の減収となり、営業損失は47百万円（前同四半期連結累計期間は営業利益21百万円）となりました。

⑤その他の事業

一般労働者派遣業、設備の整備業などのその他の事業におきましては、平成23年９月に神戸市垂水区小束山地区に大型自動車整備工場をオープンさせるなど、収益拡大に努めました。

その他の事業全体では、外部顧客に対する営業収益は1,092百万円と前同四半期連結累計期間に比べて53百万円（5.1％）の増収となりましたが、経費の増加により営業利益は120百万円と前同四半期連結累計期間に比べ29百万円（△19.6％）の減益となりました。

（２）連結財政状態に関する定性的情報

当第３四半期連結会計期間の総資産は、前期末に比べて2,337百万円減少し、90,396百万円となりました。また、純資産は前期末に比べて1,095百万円増加し、26,976百万円となり、自己資本比率は29.5％となりました。

増減の主な内訳は、資産の部では現金及び預金が3,694百万円、受取手形及び売掛金が641百万円、それぞれ減少し、建設仮勘定が1,938百万円増加しております。負債の部では支払手形及び買掛金が1,111百万円、流動負債のその他が1,199百万円、長期借入金が1,388百万円、それぞれ減少し、長期前受工事負担金が853百万円増加しております。純資産の部では、利益剰余金が1,323百万円増加し、その他有価証券評価差額金が266百万円減少しております。

（３）連結業績予想に関する定性的情報

今後の国内経済は、平成23年３月に発生した東日本大震災後の消費低迷や欧州債務危機による景気の下振れリスクなど、先行き不透明のままに推移するものと思われます。このような状況の下、平成23年11月11日に公表しました業績予想を変更いたしております。

通期の業績予想につきましては、第３四半期までの実績及び今後の見通しを勘案し、営業収益47,189百万円（前期比4.6％減）、営業利益3,881百万円（前期比9.2％減）、経常利益3,422百万円（前期比11.8％減）、当期純利益1,874百万円（前期比33.2％増）を見込んでおります。

２．サマリー情報（その他）に関する事項

（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

３．四半期連結財務諸表
（１）四半期連結貸借対照表

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （平成23年３月31日）	当第３四半期連結会計期間 （平成23年12月31日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,651	4,956
受取手形及び売掛金	2,596	1,954
有価証券	700	699
商品及び製品	980	1,202
分譲土地建物	5,113	5,755
繰延税金資産	248	325
その他	635	764
貸倒引当金	△2	△3
流動資産合計	18,924	15,656
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	33,958	33,747
機械装置及び運搬具（純額）	4,146	3,742
土地	18,580	18,832
建設仮勘定	6,397	8,336
その他（純額）	770	694
有形固定資産合計	63,853	65,352
無形固定資産	334	358
投資その他の資産		
投資有価証券	2,980	2,660
長期貸付金	45	53
長期前払費用	5,186	4,964
繰延税金資産	251	252
その他	1,175	1,114
貸倒引当金	△17	△17
投資その他の資産合計	9,621	9,029
固定資産合計	73,809	74,740
資産合計	92,733	90,396

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （平成23年３月31日）	当第３四半期連結会計期間 （平成23年12月31日）
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,381	6,270
短期借入金	7,178	6,608
1年内償還予定の社債	6,000	6,000
未払法人税等	551	929
賞与引当金	86	250
役員賞与引当金	32	－
商品券等使用引当金	337	328
その他	7,968	6,768
流動負債合計	29,535	27,156
固定負債		
長期借入金	22,389	21,001
繰延税金負債	418	217
退職給付引当金	1,672	1,331
長期前受工事負担金	5,391	6,244
受入敷金保証金	6,208	5,759
その他	1,235	1,710
固定負債合計	37,317	36,263
負債合計	66,853	63,420
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,090	10,090
資本剰余金	6,850	6,850
利益剰余金	8,603	9,927
自己株式	△126	△128
株主資本合計	25,418	26,740
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	175	△91
その他の包括利益累計額合計	175	△91
少数株主持分	287	327
純資産合計	25,880	26,976
負債純資産合計	92,733	90,396

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
（四半期連結損益計算書）
（第３四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第３四半期連結累計期間 （自　平成22年４月１日 至　平成22年12月31日）	当第３四半期連結累計期間 （自　平成23年４月１日 至　平成23年12月31日）
営業収益	36,916	34,176
営業費		
運輸業等営業費及び売上原価	29,256	26,808
販売費及び一般管理費	4,257	3,994
営業費合計	33,514	30,803
営業利益	3,402	3,372
営業外収益		
受取利息	9	9
受取配当金	32	76
雑収入	372	300
営業外収益合計	414	385
営業外費用		
支払利息	516	482
持分法による投資損失	0	0
雑支出	207	149
営業外費用合計	723	631
経常利益	3,093	3,127
特別利益		
固定資産受贈益	13	4
工事負担金等受入額	－	9
固定資産売却益	－	0
特別利益合計	13	13
特別損失		
固定資産除却損	15	38
投資有価証券評価損	63	1
減損損失	13	－
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	181	－
工事負担金等圧縮額	－	9
その他	0	－
特別損失合計	274	50
税金等調整前四半期純利益	2,832	3,090
法人税、住民税及び事業税	1,309	1,416
法人税等調整額	△73	△137
法人税等合計	1,236	1,278
少数株主損益調整前四半期純利益	1,596	1,812
少数株主利益	6	43
四半期純利益	1,589	1,768

（四半期連結包括利益計算書）
（第３四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第３四半期連結累計期間 （自　平成22年４月１日 至　平成22年12月31日）	当第３四半期連結累計期間 （自　平成23年４月１日 至　平成23年12月31日）
少数株主損益調整前四半期純利益	1,596	1,812
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△63	△269
その他の包括利益合計	△63	△269
四半期包括利益	1,532	1,542
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,527	1,501
少数株主に係る四半期包括利益	4	40

（３）継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

（４）セグメント情報等

Ⅰ　前第３四半期連結累計期間（平成22年４月１日～平成22年12月31日）

報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント						調整額（注１）	四半期連結損益計算書計上額（注２）
	運輸業	流通業	不動産業	レジャー・サービス業	その他の事業	計		
営業収益								
(1) 外部顧客に対する営業収益	14,150	16,434	3,378	1,913	1,039	36,916	－	36,916
(2) セグメント間の内部営業収益又は振替高	334	62	314	52	1,317	2,081	△2,081	－
計	14,484	16,496	3,693	1,966	2,356	38,998	△2,081	36,916
セグメント利益	2,137	119	937	21	149	3,365	36	3,402

（注）１．セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去36百万円であります。

２．セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

Ⅱ　当第３四半期連結累計期間（平成23年４月１日～平成23年12月31日）

報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント						調整額（注１）	四半期連結損益計算書計上額（注２）
	運輸業	流通業	不動産業	レジャー・サービス業	その他の事業	計		
営業収益								
(1) 外部顧客に対する営業収益	13,523	15,544	2,160	1,855	1,092	34,176	－	34,176
(2) セグメント間の内部営業収益又は振替高	324	65	618	48	1,318	2,374	△2,374	－
計	13,847	15,610	2,778	1,903	2,410	36,551	△2,374	34,176
セグメント利益又はセグメント損失（△）	1,921	209	1,116	△47	120	3,320	52	3,372

（注）１．セグメント利益又はセグメント損失の調整額は、セグメント間取引消去52百万円であります。

２．セグメント利益又はセグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

（５）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。